

事例

食べて守る琵琶湖の環境～地域の人々と作る「滋賀の郷土料理博物館」～（第5回食育活動表彰 消費・安全局長賞受賞）

草津市立^{くさつし しづか}渋川小学校（滋賀県）

滋賀県では、琵琶湖の水質悪化に対する危機意識が高まったことをきっかけに、琵琶湖等の身近な環境に関心を持ち、環境に配慮した行動ができる児童を育成する「環境教育」に力を入れてきました。草津市立渋川小学校でも、全学年が地域の暮らしや自然をテーマに「環境学習」に取り組んでいます。取組に当たっては、学校、地域、行政、研究機関、企業等が参画した「環境教育」の支援委員会を設け、様々な世代の人々の協力を得ながら実践しています。

特に5、6年生は、琵琶湖を取り巻く環境について学習しており、5年生では、琵琶湖の魚介類等を用いた郷土料理を切り口とした学習を行ってきました。漁師や農家、料理人と一緒に、「ふなずし」等の料理を作って食べることで、郷土料理に対する理解を深めるほか、同時に琵琶湖の環境

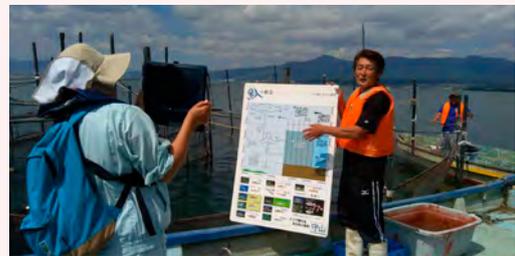
をめぐる現状や課題について話を聞くことで、課題に対して問題意識を持つようになります。そうした体験を基に、子供たちは琵琶湖の抱える課題だけでなく、その良さも多くの人に伝えたいという思いを持って、郷土料理の魅力を伝えるための展示「滋賀の郷土料理博物館」を作りました。そして、校内外で展示することにより、郷土料理の魅力を発信しています。

6年生では、テレビ会議システムを用いて、漁場等と教室をつなぎ、琵琶湖の伝統漁法等を学ぶ遠隔授業を行っているほか、県外の小学校や環境教育施設と交流し、滋賀県の郷土料理を伝えることで、郷土への愛着や誇りを深めています。

これらの取組により、「郷土料理を残していきたい。」「郷土料理を伝えるために自分にも何かできることがある。」と考える子供たちが増えています。郷土料理を通して子供たちが郷土に対する愛着を育み、さらには、琵琶湖等の郷土の環境を守ろうとする意識を持って行動することができるように、「環境教育」の充実を図っていきたいと考えています。



「滋賀の郷土料理博物館」に滋賀県知事を招いて説明



漁船上から伝統漁法による水揚げの様子を生中継